

11月3日

福岡・大分

豪雨



流木などの撤去作業で、農作業アシストスーツの使い方を実演する富田直樹・技術開発部研究員（左） 11日田市

県西部振興局は、福岡・大分豪雨で被災した日田市大肥の園芸農家の農地復旧作業に、農作業アシストスーツを試験的に導入した。水路や施設内に流入した土砂、流木の撤去などの重労働で、どれだけ体への負担が軽減できるか試した。

振興局や県農林水産部の職員、農家の計9人が参加。スーツを開発・設計する「イノフィス」（東京都）の富田直樹・技術開発部研究員から使い方の説明を受

農作業を助ける スーツ試験導入

日田市大肥の園芸農家

けた後、職員らがスーツを着用し、畑の堆積物を撤去した。土や流木が30〜40センチ積もった箇所もあり、職員は「埋もれている木などを持ち上げるのが楽になる」と話した。

富田研究員が振興局でスーツの活用場面や機能を説明。同市東有田のシイタケほだ場でもスーツを使った作業を実演した。

スーツはゴムチューブに手押しポンプで空気を入れて使う。膨らんだゴムチューブの弾力が、腰を伸ばす動作を補助する。重さ約6キ。軽量で電力を使わないため、長時間、広範囲で使用できるという。